実績報告書別紙（那須平成の森基金ホームページ等への掲載用）

助成対象者名（団体名又は個人名）	一般社団法人　日本インタープリテーション協会
所在地	〒176-0024 東京都練馬区中村 2-24-5 TEL03-6868-5499 FAX03-6868-5499
助成対象者のプロフィール	「一般社団法人 日本インタープリテーション協会」は、インタープリテーションの普及や向上と、それを通じて社会に貢献することを目的に、人材育成、ネットワーキング、研究開発などの事業を行なっている団体である。
活動名	自然公園拠点のインタープリテーションにおける地図情報ツールの活用の検討
活動分野	自然体験・自然学習の推進、調査研究・モニタリングの推進
助成金額	70,604 円
活動の背景と目的	ネイチャーセンターの役割の一つに「自然情報を来館者へ伝えること」がある。この目的を達成するために自然情報の調査・収集・整理・共有をスタッフが行う。従来は紙媒体で情報を記録してきたが、この手法ではデータの集約に時間が掛かり、さらに分析や活用まで行うことが難しい。そこで、当協会と帝京科学大学古瀬研究室では Google Earth Outreach の協力を得て google map 上で自然情報を集約できるキットの開発に取り組んでいる。この地図情報ツールを利用した自然情報の記録方法により、ネイチャーセンターにおけるインタープリテーション業務をより円滑化できることを期待している。本プロジェクトでは、国立公園のモデル施設である那須平成の森をフィールドとして、データ収集およびインタープリテーション業務への活用を検討する。 ※Google Earth Outreach では社会貢献活動の一貫として本プロジェクトに携わっている。地図情報ツールは、クラウドの利用を除き、すべて無料で提供されている。

活動の概要	実施日：平成２９年１０月１１日（水） 場所：那須平成の森 参加者：１４名（申込者１６名） 　　２０代３名、３０代６名、４０代３名、５０代２名 参加者の居住地：那須町１名/栃木県内６名/栃木県外７名 活動内容： １．はじめに　地図情報ツールを利用した自然情報記録の可能性 ・先行して行っているSEEKプロジェクトの紹介。Googleの提供している地図情報ツールを活用することで、ネイチャーセンター同士の自然情報共有や経年の分析が他の地図情報ツールより比較的簡単にできることを説明した。 ※SEEKとはStep Out、Explore、Enjoy Encounter、Keep Tracksの略。ネイチャーセンターのスタッフが自然情報を収集、分析することを目的としている。 ２．ODKコレクト、ENKETOを使ってみよう ・自然情報を記録するツール「ODKコレクト」の使用方法を説明した。 ※ODKコレクトとはOpen Data kitの略。自分で自由に項目を設定できる情報収集ツール。携帯端末で使用できる。今回は予め収集情報を設定したODKを使用。 ※ENKETOはODKコレクトのブラウザ対応版。 ・ふれあいの森内を歩いてODKコレクトを使って現地の自然情報を収集した。 ３．Fusion Tableからデータを抽出 ・収集したデータをFusion Table上に落とし込む作業を行い、情報を可視化した。 ・Google Earth Outreachのスタッフによるツールの説明がテレビ電話を介して行われた。 ※Fusion TableとはGoogleが提供している地図情報と連携できるデータベース。 ４．SEEKの活用方法についてディスカッション ・ホームページへのデータの書き出しについて。 ・参加団体の協働による調査の可能性について

	５．研修終了後、那須平成の森、山のふるさと村ビジターセンターの２拠点のネイチャーセンターで研修を元に作成したフォームを展示 ・山のふるさと村ビジターセンターでは周辺に生息するニホンザルの目撃情報を Fusion Table で表示 ・那須平成の森ではツキノワグマの目撃情報を Fusion Table で表示
活動の結果と効果	現在、全国のネイチャーセンターではスタッフによる自然情報収集が盛んに行われているが、業務が多様なため貴重な情報を分析や可視化するまでに至っていないケースが多々見受けられる。それを改善する方法として、一元管理が可能な ODK コレクトと Fusion table を活用した自然情報収集を日本インタープリテーション研究会では推進している。 今回の活動は、プロジェクトを立ち上げてから間もない中、栃木県内はもとより、関東、東北から参加者が集まり地図情報ツールの有用性と新しい可能性をディスカッションする貴重な機会となった。活動自体はツールの紹介というセミナー型であるため、研修終了後に活用されるかどうかは参加者の判断に委ねることとなった。 那須平成の森では、現在 ODK コレクトと Fusion table を活用し、ツキノワグマの目撃情報をパソコンモニターに表示したものを、展示スペース（受付カウンター？）に設置している。実際に平成の森で目撃された位置情報がパソコン上で可視化されることによって、一般来場者への野生動物に対する注意の促しや付き合い方の普及啓発につながっている。 また、秩父多摩甲斐国立公園にある奥多摩地域では、ニホンザルの増加が問題となっているが、ネイチャーセンターの来園者に目撃情報を記録するツールを開発し、一般の参加者が記録できるようになった。そのほか、参加者の一人がフィールドである高尾地域で実用化に向けて動いているとの情報があり、今後の結果やツールの活用が期待される。 以上のように、那須平成の森をモデル地域の一つとして、今後も全国のネイチャーセンターに向けて地図情報ツールの活用を促していきたい。

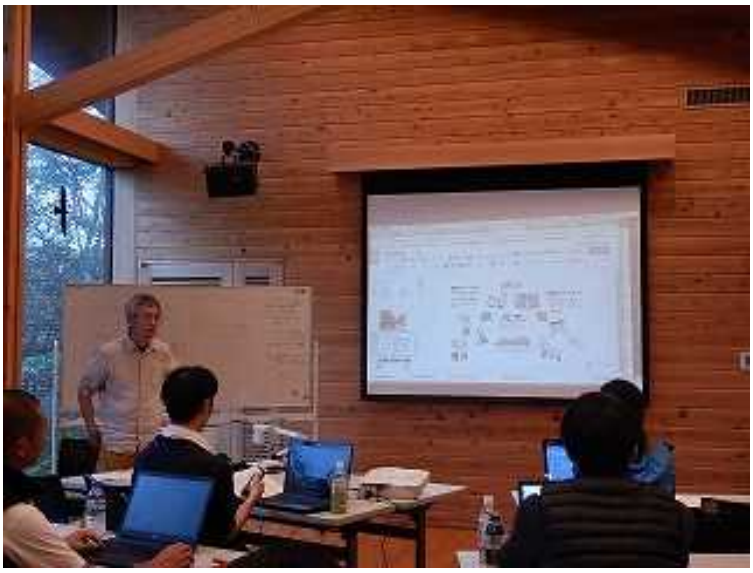
助成活動の写真	 写真-１．地図情報ツールのシステム説明。情報のインプットとアウトプットが連携して行えることを示した。 写真-２.ODK コレクトの説明。選択式となっており、種名、大きさ、場所、作成者などの入力がスマートフォンで行える。

写真-３.ふれあいの森でスマートフォンを使いながら、ODK コレクトを使用。各自で見つけた自然情報が Fusion Table を通して集約される。

写真-４.今後、地図情報ツールでどのような情報を取り扱うことができるのか意見交換をしている様子。

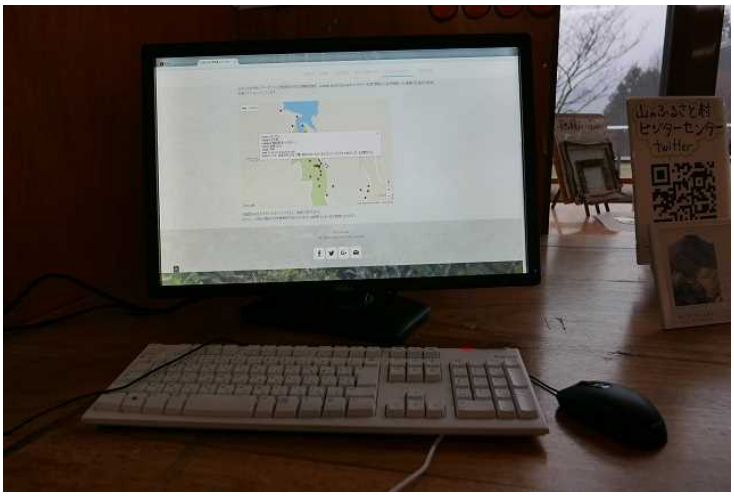


写真-５.後日、研修を元に設置した山のふるさと村ビジターセンターのモニター展示。ニホンザルに特化した ENKET と Fusion Table を使用している。

写真-６.那須平成の森ではツキノワグマの情報を可視化している。